



母乳育児支援で、 地球も元気に



WABA | 世界母乳育児週間 2020

ひとは皆のために、 皆はひとりのために

世界母乳育児週間2020年(#WBW2020)は、母乳育児と地球の元気との関連に焦点を当てます。その関連を理解するための枠組みを示し、いくつかの課題を挙げ、いくつかの解決策を提示します。

“
私たちは自分の家が火事になっていることを認める必要があります。そして次の世代のためにも、いかなる生活の場面でもカーボン・フットプリント(以下、炭素フットプリント)*を早く減らしていく必要があります。……母乳育児はこのジグソーパズルの一片であり、セクターを超えた投資がすぐにでも必要なのです。

Joffe, Webster & Shenker, 2019 ^[1]

【訳注】商品の一生(原料調達から廃棄・リサイクル)に排出される温室効果ガスの総量を二酸化炭素換算した量。例えば、1.9リットルのオレンジジュース1パックは、1.7キロの二酸化炭素に相当する温室効果ガスを排出すると見なされる。女性は母乳をカーボン・フットプリント0(ゼロ)で何百リットルも製造できる。(「母乳育児のポリシー」メディカ出版、p.426)

世界母乳育児週間2020年の目標



情報提供する

人々に母乳育児と
環境問題・気候変動との
関連について情報提供する



揺るぎないものとする

母乳育児を
気候変動の対策の
一つとして位置づける



協働する

個人や団体と連携して
もっと影響力を持つように
協働する



啓発する

母乳育児によって
地球の元気と人々の健康を
改善するよう啓発する

免責事項：ここで表明された意見はWABAのものであり、作成に協力した方々やその団体の方針や見解を必ずしも反映していないことがあります。このパンフレットに書かれた情報は、母乳代用品を使う女性(親)がまるで環境や気候に悪影響を与えているかのように罪悪感を抱かせることを意図しているわけではありません。すべての女性(親)は自分自身の納得のいく栄養法ができるように支援される必要があります、それが社会の責任でもあります。

母乳育児と地球の元気

地球が元気であるということは、人類の文明とその基になっている自然界が元気であるということです^[2]。持続可能な開発は、未来の世代に悪影響を

与えずに現在の世代のニーズを満たします。母乳育児は国連の持続可能な開発目標(SDGs)のすべての鍵です^[3]。

食べるものと食べることは大切

気候変動と環境汚染は、今日の世界が直面している最大の緊急課題のひとつです。人間の活動によってもたらされる二酸化炭素、亜酸化窒素、メタンなどの温室効果ガス(GHG)の排出は、産業革命以前に比べて1℃以上地球の気温を上昇させています^[4]。興味深いことに、我々人類にとってもう一つの緊急課題であり、より喫緊の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックへの対応により、温室効果ガスの排出量の減少が見られました。ここから学べるのがいくつかあるかもしれませんが、気候変動の課題に適用することができる可能性があります。大気や水や食品中の汚染物質、希少な資源の無駄遣い、過剰なゴミ、生存環境の破壊による環境汚染は、しばしば人間の活動で起きています^[5]。私たちの食品製造システムや消費パターンは、気候変動や環境汚染に大きくかかわっています^[6]。

新型コロナウイルス感染症パンデミックが教えたことは、私たちは皆が影響を受けているということ、そして、社会での調整の取れた対処がすぐにでも必要だということです。炭素フットプリント(CFP)^[7]と生態系フットプリント^[8]を減

らすために、まず赤ちゃんに何を食べさせるかから始めることで我々は何らかの形で貢献できます。新型コロナウイルス感染症のような今起きている健康の緊急状態はまた、乳児栄養法に影響する課題をつきつけています。

世界保健機関(WHO)と国際連合児童基金(UNICEF、ユニセフ)が推奨する「最適な乳幼児栄養」

- ・生後1時間以内に早期から母乳育児を開始すること
- ・生後6か月間は母乳だけで育てること
- ・生後6か月になったら栄養十分で安全な補完食(離乳食)を開始し、2歳かそれ以上まで母乳育児を続けること

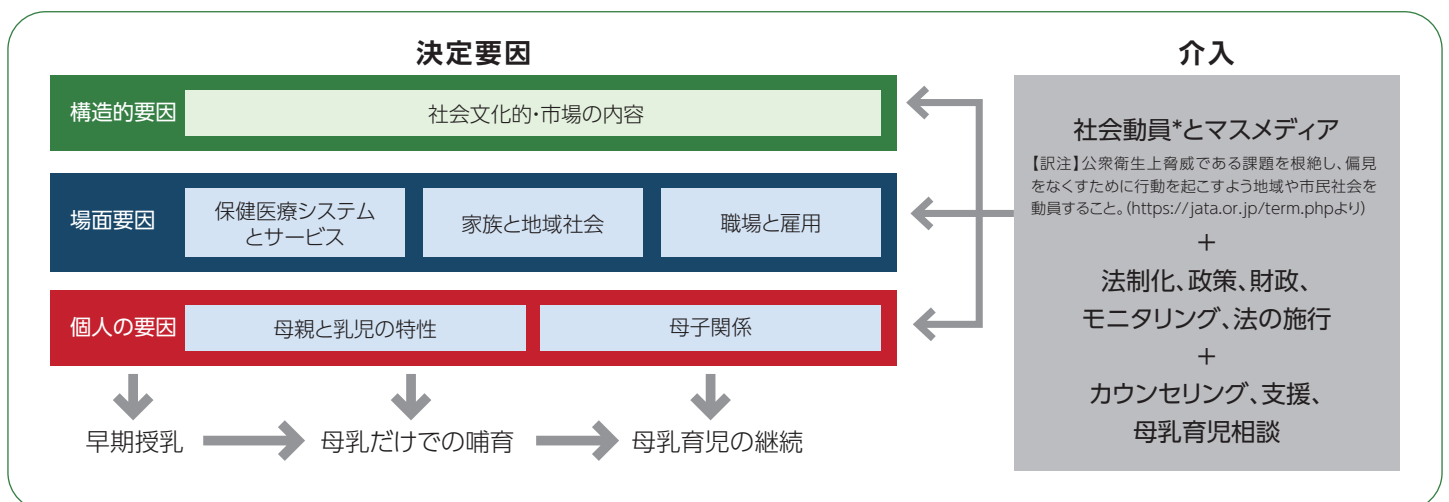
母乳育児支援への投資

母乳育児は乳児を救済し、個人や国の健康増進、社会的経済的発展のための最高の投資の一つです。最適な乳幼児栄養が実践できるように環境を整えることは社会の責務です。

環境を整え母乳で育てられるようにするためには何が必要でしょうか。母乳育児の保護・推進・支援は構造的にも個人のレベルでも大切です(下図を参照)。最適な乳児栄養法が平常時も緊急事態・災害時も続けられるように調整することは、すべての赤ちゃんが必要な栄養をとれるようにするために必須です。

母乳育児を支援することは、地球を元気にすることに短期的にも長期的にも影響を与えます。母乳育児支援は喫緊の要請で、もっと大きな声をあげたり、しっかりした調査を呼び掛けたり、関連するセクターすべてに行動するよう働きかけたりしなければなりません。新型コロナウイルス感染症パンデミックとその対応のような緊急事項として、母乳育児を継続して権利擁護していく必要があります。母乳育児は公衆衛生的介入で、命を救い、感染や疾患を全般的に減少させます。行動することが地球市民としての務めです。

#WBW2020(2020年の世界母乳育児週間)が、これまでも増して重要です!



Rollins「Why invest, and what it will take to improve breastfeeding practices?» (2016)より

母乳育児は気候温暖化に対して戦う兵士のように見えなくてもいいかもしれませんが、形勢逆転に貢献する可能性があります。

Dr. Taru Jindal, 2020



地球を元気にするには 持続可能な行動が必要

時間の経過とともに、自然界への人類の影響力の大きさは膨大になっています。天然資源の枯渇と破壊、主要な温室効果ガスの排出の増大は少なくとも過去80万年間で最大レベルに達しています^[9]。私たちは地球環境と自分たちの健康を守る必要があります。それは以下によってなされます。1) 土地・水・エネルギー源の責任をもった使用 2) 生物多様性の保全 3) 配慮のある消費。SDGs^[10]の目標のいくつかは、環境汚染と気候変動に立ち向かうための具体的な行動の指針を提供しています。母乳育児はSDGsのすべてと関連があり、持続可能な開発を達成するための鍵です^[11]。



母乳育児も視野に入れた 持続可能な食糧供給システム

温室効果ガス排出の26%は食品製造によるものです。また、世界の土壌酸性化の約32%、水域の過剰ミネラル化作用*の78%にも関係しています^[12]。私たちの現代の食品製造と消費は水陸の生態系を汚染し、気候変動を引き起こしています。私たちのライフサイクルにおいて、環境汚染と気候変動の危機を軽減するためのどのような試みも意味があります。母乳は私たちが消費する最初の食べ物であり、持続可能な食糧供給システムの重要な一部です。他方、母乳代用品の使用を推進することは問題をさらに悪化させかねません。それぞれの栄養法が、平常時と緊急事態・災害時のどちらにおいても、地球の保全にどのような影響を及ぼすのかもっと理解する必要があります。

【訳注】農牧業、生活排水、産業排水など人間の活動の影響により、水中のミネラルが増えすぎて生態系のバランスをくずすこと。



国際保健と栄養における新たな脅威

過去数十年間で国際保健における多くの発展がありました。数々の課題も新たに出てきています。例えば、自然災害、今も世界的に流行中の新型コロナウイルス感染症といった感染症のアウトブレイク(爆発的な広がり)、十分な医療システムの欠如などです。多くの国では過栄養と低栄養の二重負荷に直面しています。非感染性疾患も増えています。特に、紛争地域や災害脆弱地域において、何百万人もの人々に食糧が安定的に供給されていません。私たちの食事内容と食べ物の消費行動がこうした課題の根底にある要因です。ふだんの状況においても緊急事態・災害時においても、母乳育児は、短期的長期的な健康、良質な栄養の供給、そして食糧安全保障に役立ちます。緊急事態・災害の起こる前、起きたとき、そして起きた後において、母乳育児の保護・推進・支援をすることはなかなか難しいのですが、私たち皆が力を入れて進めなければなりません。



乳児栄養法の重要性

母乳代用品は、原料から消費までの、製造、包装、梱包、流通、調乳の過程で、環境や気候に影響を与えざるをえません。一方、母乳の産生は、母親が少し余分に食べる必要があるだけで、天然資源をそれほど浪費せず、ゴミもほとんど出ません。「最適な母乳育児」ができる割合を増やすよう支援することで、年間で82万3000人の子どもの命と2万人の母親の命が助かります。母乳をまったく与えないことと知能指数には関連があり、年間で3020億ドルの経済損失となります^[13]。

「最適な母乳育児」*がもたらす生涯の健康上の利点

【訳注】p.2参照。生後半年間は母乳だけを飲ませその後は補完食を与えながら2歳かそれ以上まで母乳を与え続けることで、健康上の効果が最大限に発揮されるとWHOやユニセフは推奨している。

- ・ 女性(親)にとって：出産の間隔を空け、乳がん・卵巣がんを減らし、高血圧のリスクを下げる
- ・ 子どもにとって：感染症にかかりにくくなり、下痢の頻度と程度を軽減し、呼吸器感染症と中耳炎を減らし、むし歯や不正咬合を予防する。また、知能指数が高くなる



なかなか改善しない母乳育児の割合

毎年生まれるすべての赤ちゃんの約40%だけが生後6ヵ月まで母乳だけを与えられており、2歳かそれ以上まで母乳を飲んでいるのは45%にすぎません^[14]。その原因でよくあるのが、母乳育児支援の欠如です。保健医療システム内でも職場でも地域においても母乳で育てたい女性への支援が欠けています。例えば、産休や育児休業が短く、職場での支援が欠如していると、「最適な母乳育児」をするのがより難しくなります。緊急事態・災害時では、母乳育児がそこなわれる状況になりかねず、代替品が必要な乳児にとって、母乳バンクからのドナー母乳が入手できないかもしれず、母乳代用品の物流もしばしば途絶えます。2019年には、乳児用ミルクの時価総額は約710億米ドル^[15]で、特に低所得国での売り上げが伸びています。乳児用ミルクのほかにも、フォローアップミルクや幼児用ミルクの市場は増大していますが、WHOはこれらを不要と見なしています^[16]。母乳代用品企業の非倫理的なマーケティング手法は状況を悪化させて続けています。



母乳代用品の生態系フットプリント

乳牛牧畜とカーボン・トラップ【訳注】植物などが炭素を吸収することで閉じ込めること

ほとんどの母乳代用品の主な原料は牛乳です。典型的な乳牛牧畜はメタンなどの温室効果ガスを多量に排出します。さらに、乳牛用の飼料や放牧地は森林破壊を引き起こすことがあります。森林破壊が起こると二酸化炭素量が増えます。二酸化炭素を吸収して気候変動を予防する森林の木々がなくなるからです。乳牛の飼料は農薬と肥料を集中的に使用して成長させた穀類・大豆でできています。それも別の意味で生態系フットプリントを多量に残すことになります^[17]。

エネルギー源と炭素排出

母乳代用品の製造、包装、流通、調乳の過程は、ほかのほとんどの食品製造と同様、エネルギーを必要とします。**エネルギー源**が化石燃料だとしたら、炭素フットプリントはより高くなります^[18]。気候変動に関する**パリ協定**は、政府と企業に対し、地球規模の気候変動を防止する目標に到達するために、炭素排出量を削減し再生可能エネルギーを増やすよう促しています^[19]。幸いなことに、この推奨に向けて**継続的な努力**が一部でなされています^[20]。

環境における廃棄物

生態系フットプリントという点からは、廃棄物も考えなくてはなりません。2年間**100万人の赤ちゃんに乳児用ミルク**^[21]を飲ませると平均で1億5000万個のミルク缶を使います。金属缶はリサイクルしなければ埋立地に行きつき、包装用のプラスチック、アルミニウム、紙はしばしば海を汚染することになります。

母乳代用品の水フットプリント

水フットプリントとは、個人や地域で消費する、もしくはビジネスによって生み出される商品やサービスを作り出すのに使う淡水の総量です^[22]。母乳代用品の製造と調乳には水が必要です。淡水は貴重な天然資源であり生活必需品でもあるので、保護することが必要です。乳製品の水フットプリントの計算は、**場所**にもより、牧畜の方法などの要因に左右されるので複雑です^[23]。とはいえ、水資源を保全し、リサイクルし、補給するすべての努力は必須です。



母乳育児の生態系フットプリント

生まれてから6か月間母乳育児を続けるには、平均して**1日に500キロカロリー**のエネルギーを必要とします^[24]。気候や活動レベルなどによって、母乳育児中は水を余分に飲む必要があるかもしれませんが、**生理学的所要量**を満たす以上の量が必要だという根拠はありません^[25]。それぞれの食べ物によって炭素フットプリントはさまざまですが、植物由来の食事のほうが**地球にやさしい**と考えられています^[26]。全ての親は、健康的で栄養があって地球にやさしい選択ができるように支援される必要がありますが、特に子どもを産み育てる期間は重要で、それには母乳育児も含まれます。

食事の内容によって炭素フットプリントは違います。直接授乳することや母乳を手でしぼることは、廃棄物を減らしエネルギーなどの資源を節約するという意味で効果的です。母乳をしぼるのに搾乳器を使うのは、余分な器具を必要としますが、ほとんどは再使用が可能ですから、母乳代用品を飲ませるよりも環境にやさしいといえます。



炭素フットプリントの比較

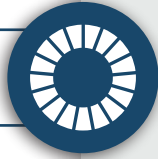
母乳代用品と母乳育児の炭素フットプリントの正確な計算と比較は複雑な作業で、系統的な研究では2,3しか行われていません。よく使われる方法は、**ライフサイクル評価**で、農場から食卓に届くまでの過程で二酸化炭素に換算するとどのくらい排出したかを計算に入れ、多くの変数、因子、仮定を用います。母乳代用品と母乳育児の炭素フットプリントに焦点を当てた2つの研究を紹介します。

- 英国、中国、ブラジル、ベトナムの**比較研究**^[27]で、母乳育児の炭素フットプリントは母乳代用品の炭素フットプリントよりもそれぞれの国で、40%、53%、43%、46%低かったことが示されています。しかし結果はどのように二酸化炭素排出量を計算するかによって変わります。例えば、脂肪とタンパク質の含量を基にして、哺乳瓶の消毒を除くと、母乳代用品のフットプリントのほうは母乳育児よりも12-36%低いという結果になります。
- 南太平洋およびアジア太平洋地域の6か国からの**ケーススタディ報告**^[28]では、乳児用ミルク販売による温室効果ガスの量を示しています。報告によると、乳児用ミルクの製造は温室効果ガスの重大な源として注目されるようになっていきます。研究したすべての国で、不必要なフォローアップミルクや幼児用ミルクの使用が増大していることが大きな懸念です。

すべての人への支援

SDGsは、地球を元気にするための枠組み

SDGsは、人類・地球・繁栄と平和のためのものです。母乳育児は、地球を元気にするための多くの持続可能な解決策のうちの1つです。SDGsは、[地球環境](#)に及ぼす現在の課題のいくつかに取り組むための枠組みを提供しています^[29]。心身の健康の保証は、貧困・飢餓・栄養不良をなくし、健康を増進させ、人間らしい働き方をする権利、ジェンダー間の平等、だれも取り残さないこと、平和であることを保証することでもあります。母乳で育てやすい環境を作り出すには、一連の支援や政策がまとめて必要です。母性保護・育児休業、保健医療専門家や地域ボランティアの育成、赤ちゃんにやさしい病院運動(BFHI)、母乳育児カウンセリングを受けられること、「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」と世界保健総会の関連決議の実施とモニタリングです。



- 母乳育児・乳児栄養に関する、国の方針や指針、国際方針や指針をSDGの項目やその他の環境問題や気候変動に関する運動と結びつける
- 公衆衛生的な観点を取り入れ、BFHI(赤ちゃんにやさしい病院運動)と母乳育児カウンセリングを強化する。対象は一般の人々に対してで、緊急事態・災害時にも行えるようにする
- 政治家(方針決定者)の意識を喚起し、母乳育児が食糧安全保障および環境の持続可能性にいかに関与するかを認識してもらう
- 母乳代用品産業からの二酸化炭素排出を減らす方針を応援する
- [「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」と世界保健総会の関連決議](#)を完全に実施しモニタリングすることを保証する
- 国際労働機関(ILO)の[母性保護条約第183号](#)を最低水準とした、有給の育児休業と職場の母乳育児に関する方針を実現させる

社会的支援

すべての女性(親)が最適な母乳育児をするために社会から支援を受ける権利があります。社会文化的背景によって多様性がありますが、さまざまな支援が役立ちます。家族、地域、保健医療システム、[職場](#)などから支援を受けることができます^[30]。

[母乳育児カウンセリング](#)は女性(親)および乳児が直接受ける支援ですが、特別な研修を受けた[保健医療従事者やカウンセラー](#)が提供します^[31,32]。女性(親)が母乳育児カウンセリングをたやすく受けられる状況だと、母乳だけで育てる割合が増え母乳育児期間も長くなります。



- [予算を増やし](#)、よりよい方針の実施とモニタリングをし、家族が必要とする母乳育児支援、特に母乳育児カウンセリングを提供するよう、働きかける
- さまざまな[コミュニケーションのテクニック](#)やインフルエンサーを用いて、人工栄養が環境に及ぼす影響をコミュニティに知らせる
- [ジャーナリストやメディア](#)に理解を促し、母乳育児と環境問題・気候変動を結び付ける公開討論を引き起こすようにする
- 母乳代用品が気候や環境に及ぼす影響についてさらなる研究ができるよう人や資金を配分する
- 緊急事態・災害時におけるさまざまな乳幼児栄養の方針やプログラムがどう影響するかについてのデータを系統的に収集する

母乳育児カウンセリングは必須のもの

[母乳育児カウンセリング](#)は、母乳で育てたい多くの女性(親)がその願いをかなえやすくなるために必須です^[33]。WHOによると、カウンセリングはすべて支援とみなすことができますが、支援的介入のすべてにカウンセリングが含まれているとは限らないようです。

カウンセリングはカウンセラーと女性(親)との間の相互作用と過程であり、何をすべきかと上から決めてかかるような介入ではありません。母乳育児カウンセリングの[目的](#)は、女性(親)の個人的な状況と願いを尊重しながら、母乳で育てるようにエンパワーすることです^[34]。専門家、ピアカウンセラーのような非専門家、あるいは[両方](#)によってなされるかもしれません^[35]。母乳育児カウンセリングは、話を聴くこと、共感すること、自信を培うこと、情報を提供すること、提案をして女性(親)自身が自分に最適なことを選べるようになることです。また、実際の援助をし、赤ちゃんが乳房に吸いつくようにどうやって抱いたらいいかを見せ、[よくある問題](#)に対処することでもあります^[36]。



- 乳幼児を持つすべての女性(親)が、医療施設や地域でスキルのある母乳育児カウンセリングを受けることができるよう権利擁護する
- [2018年に改訂されたBFHIガイドライン](#)^[37]を、私立病院を含めたすべての病院で実施する
- 女性(親)の近隣で基本的な母乳育児カウンセリングなどの支援ができるように、地域のグループに人や資金を配分する

すべての人への支援

「最初の1000日間」*（妊娠してから満2歳）の継続支援



【訳注】妊娠中から満2歳までの母子の栄養がその後の人生の健康の要となるため、その重要性を喚起するために用いている表現

母乳育児カウンセリングは、きちんと先の見通しを立て、スケジュールを決めて、継続的にされるのが最も効果的です。すべての女性（親）は産前産後期に、計画された面談を複数回受ける必要があります^[38]。産後早期の数ヶ月は頻繁に、子どもが2歳になるまで継続的に少なくとも6回は連絡や支援を受けられるようにするといいいでしょう。

すべての段階で知識とスキルを豊かに



非専門家とピアサポーターには、母乳育児カウンセリングと実践スキルについて基本的な研修が必要です。保健医療専門家は、母乳育児カウンセリングのスキルと問題に対処し乗り越えるための臨床的なスキルが併せて必要です。また、専門的な知識を持った人たちがいて、教師・トレーナー・プログラム管理者・助言者として行動してくれることも必須です。

その人たちの役割は、すべての段階で効果的に支援できる力をつけスキルを伸ばし、保健医療の水準を満たし更新するよう保証することです。さまざまな段階で一貫性のある力をつけるには人と財政の投資が必要です。投資をすることによって経済的利益につながります^[39]。

だれも取り残さない



家族によってはより脆弱なため、さらなる母乳育児支援が必要なこともあります^[40]。脆弱な状況とは、緊急事態・災害時、特別なニーズなどの母乳育児に影響する医学的状況がある場合も含みます。気候変動^[41]や環境に関連した災害^[42]の増加への懸念は大きくなってきています。ふだんよりも低栄養になったり子どもが亡くなったたりするリスクが高いからです。現在進行形の新型コロナウイルス感染症の流行も緊急事態であり、子どものいる家族は非常に脆弱な立場に立たされています。どのような緊急時でも、母乳を飲んでいる乳幼児と母乳を飲んでいない乳幼児のどちらもの栄養的ニーズを大切に世話ができるように支援するために、アセスメントをしたうえで行動が必要です。国内の、そして国際的な、根拠に基づいたガイドライン^[43]が、一般の人々に一貫性のあるメッセージとして届けられることが欠かせません。

母乳代用品の寄付や一律配布は母乳育児を妨げたり、いつの間にか阻害したりすることがあります。緊急事態・災害時には、母乳代用品の物流が不安定になり、衛生状態も悪くなることがよくあるので、母乳育児を続けることがいちばん安全な選択となります。新型コロナウイルス感染症の場合、WHOとUNICEFは必要な衛生予防策を講じたうえで直接授乳をすることを推奨します。こうした推奨は新たな根拠が出てくると改訂される可能性があります。「災害時における乳幼児の栄養：災害救援スタッフと管理者のための活動の手引き」^[44]には、緊急事態・災害時における最適な乳幼児栄養を保護し支援するための主な行動が記されています。

私たちにできること

- 最適な母乳育児を続けるために、継続的に産前産後の母乳育児カウンセリングを受けられるように権利擁護する
- 「最初の1000日」における主な支援者とその役割を確認しておき、お互いに連携できるようにして、母乳育児のための「温かい支援の輪」を作る
- 父親（パートナー）や行政のファミリーサポートの提供者にもかかわってもらい、家事を分担したり、母乳で育てている母と子の世話をしたりしてもらう
- 母親（親）の支援グループに参加して、経験をコミュニティのほかの人と共有し、母乳育児が当たり前できるようにする
- 巻き込みたい人々を対象に、創造的な工夫をして、世界母乳育児週間2020にオンラインイベントを行う

- さまざまなレベルの知識やスキルを持った保健医療専門家、ラクテーション・コンサルタント、地域のボランティアやピアサポーターのための一貫性のある研修プログラムに投資する
- 適切な研修を受けたスキルのある人々（ピアサポーター、保健医療専門家、ラクテーション・コンサルタント、専門的な知識を持った助言者）がさまざまな段階に配置されるように権利擁護する
- すでにある母乳育児研修の教材やプログラムを発展させ広げる（オンライン、デジタルやインターネットを利用した学習法、対面式の臨床実習などの実践的学習）
- 児童、生徒、学生、若者、ソーシャルメディアのインフルエンサーを巻き込んで、地球を元気にするために母乳育児が大切であることを広めてもらう

- 国の防災対策を立て広報メッセージを作成するにあたって、根拠に基づいた国際的な乳幼児栄養法の指針の使用を促す
- 国の防災対策と災害対応計画の中に母乳育児の保護・推進・支援が具体的に含まれるようにする
- すべての保健医療従事者、地域社会、一般の人々に対し、国や地域の防災対策に母乳育児が大切であることを伝える
- 家族全員と地域の人々に向けて、適切で一貫性のある広報メッセージを作成し、母乳で育てている家族への支援を強化する
- 母乳を手でしぼること、安全な状況における搾乳器の適切な使用、適正な母乳の保存と準備、コップ授乳、母乳分泌を維持するテクニック、母乳復帰（母乳分泌再開）、もらい乳（母親以外の女性による直接授乳）についての情報を強調する
- 母乳バンクなどの適切な地域の受け皿をととして、ドナー母乳を必要とする赤ちゃんが入手できるようにする

環境にやさしい授乳の権利擁護運動

「環境にやさしい授乳と食事（グリーン・フィーディング）」は、母乳育児を保護・推進・支援し、乳業会社からの売り込みや誤解を与えてミルクに誘導するような宣伝から親たちを守る権利擁護運動です。

この運動には、生後6ヵ月間母乳だけで育て、月齢の高い赤ちゃんには適切な補完食も与えられるような地域での支援も含まれています。家族が、商業的な圧力を感じずにどのように授乳し何を食べさせるかを決められることが必要です。それは赤ちゃんにとっても幼児にとっても同様です。母乳育児を続けるためには、

家族が望む限り長期間の支援を必要とします。家庭で調理した食事は加工や流通に費用がかからないので、経済的です。持続可能な地元の農業は生物多様性があり安定して入手でき、食文化に合った食べ物を供給します。高度に加工された食品のマーケティングと販売促進によって、地域での支援がいつの間にか阻害されることも起こります。「環境にやさしい授乳と食事（グリーン・フィーディング）」運動は、生産と消費の気候変動への影響を評価するための炭素フットプリントと、環境への影響を評価する生態系フットプリントの両方を含んでいます。

ひとは皆のために、皆はひとりのために

1. Joffe, N., Webster, F., & Shenker, N. (2019). Support for breastfeeding is an environmental imperative. *The British Medical Journal*, 367, l5646. <https://doi.org/10.1136/bmj.l5646>
2. Whitmee, S., Haines, A., Beyrer, C., Boltz, F., Capon, A. G., de Souza Dias, B. F., Ezeh, A., Frumkin, H., Gong, P., Head, P., Horton, R., Mace, G. M., Marten, R., Myers, S. S., Nishtar, S., Osofsky, S. A., Pattanayak, S. K., Pongsiri, M. J., Romanelli, C., Soucat, A., et al. (2015). Safeguarding human health in the Anthropocene epoch: report of The Rockefeller Foundation-Lancet Commission on planetary health. *The Lancet*, 386(10007), 1973-2028. [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(15\)60901-1](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(15)60901-1)
3. WABA. (2016). *Breastfeeding: a key to sustainable development*. <http://waba.org.my/v3/wp-content/uploads/2019/10/wbw2016-af-i.jpg>
4. Ritchie, H., & Roser, M. (2017). CO₂ and greenhouse gas emissions. *Our World in Data*. <https://ourworldindata.org/co2-and-other-greenhouse-gas-emissions#consumption-based-trade-adjusted-co2-emissions>
5. Friedman, J. (2018). *Environmental degradation – what you need to know and its harmful effects*. Conservation Institute. <https://www.conservationinstitute.org/environmental-degradation/>
6. Luke. (n.d). *Effects of food production and consumption on the environment and climate*. <https://www.luke.fi/en/natural-resources/food-and-nutrition/effects-of-food-production-and-consumption-the-environment-and-climate/>
7. Center for Sustainable Systems, University of Michigan. (2019). *Carbon footprint factsheet* (Pub. No. CSS09-05). http://css.umich.edu/sites/default/files/Carbon%20Footprint_CSS09-05_e2019.pdf
8. Global Footprint Network. (2017). *How ecological footprint accounting helps us recognize that engaging in meaningful climate action is critical for our own success*. <https://www.footprintnetwork.org/2017/11/09/ecological-footprint-climate-change/>

課題

9. See reference 2
10. United Nations. (n.d). *About the Sustainable Development Goals*. <https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>
11. See reference 3
12. Poore, J., & Nemecek, T. (2018). Reducing food's environmental impacts through producers and consumers. *Science*, 360(6392), 987-992. <https://doi.org/10.1126/science.aag0216>
13. Rollins, N. C., Bhandari, N., Hajeebhoy, N., Horton, S., Lutter, C. K., Martines, J. C., Piwoz, E. G., Richter, L. M., Victora, C. G., & The Lancet Breastfeeding Series Group. (2016). Why invest, and what it will take to improve breastfeeding practices? *The Lancet*, 387(10017), 491-504. [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(15\)01044-2](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(15)01044-2)
14. UNICEF. (2018). *Improving breastfeeding, complementary foods and feeding practices*. https://www.unicef.org/nutrition/index_breastfeeding.html
15. Mason, F., & Greer, H. (2018) *Don't Push It: why the formula milk industry must clean up its act*. Save the Children UK/Save the Children International. <https://resourcecentre.savethechildren.net/node/13218/pdf/dont-push-it.pdf>
16. World Health Organization & UNICEF. (2019). *Cross-promotion of infant formula and toddler milks: information note*. <https://www.who.int/nutrition/publications/infantfeeding/information-note-cross-promotion-infant-formula/en/>
17. Pérez-Escamilla, R. (2017). Food security and the 2015–2030 Sustainable Development Goals: from human to planetary health: perspectives and opinions. *Current Developments in Nutrition*, 1(7), e000513. <https://doi.org/10.3945/cdn.117.000513>
18. Energy for Humanity. (n.d). *Resources*. <http://energyforhumanity.org/en/resources/>
19. UNFCCC. (2015). *The Paris Agreement*. <https://unfccc.int/process-and-meetings/the-paris-agreement/the-paris-agreement>
20. Science Based Targets. (n.d). *Meet the companies already setting their emissions reduction targets in line with climate science*. <https://sciencebasedtargets.org/>
21. IFE Core Group. (2017). *Infant and young child feeding in emergencies: operational guidance for emergency relief staff and programme managers, version 3.0*. https://www.enonline.net/attachments/3127/Ops-G-English_04Mar2019_WEB.pdf
22. Water Footprint Network. (n.d). *Frequently asked questions*. <https://waterfootprint.org/en/water-footprint/frequently-asked-questions/>

23. Huang, J., Xu, C.-C., Ridoutt, B. G., Liu, J.-J., Zhang, H.-L., Chen, F., & Li, Y. (2014). Water availability footprint of milk and milk products from large-scale dairy production systems in Northeast China. *Journal of Cleaner Production*, 79, 91-97. <https://doi.org/10.1016/j.jclepro.2014.05.043>
24. Karlsson, J. O., Garnett, T., Rollins, N. C., & Rös, E. (2019). The carbon footprint of breastmilk substitutes in comparison with breastfeeding. *Journal of Cleaner Production*, 222, 436-445. <https://doi.org/10.1016/j.jclepro.2019.03.043>
25. Ndikom, C. M., Fawole, B., & Ilesanmi, R. E. (2014). Extra fluids for breastfeeding mothers for increasing milk production. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, (6). <https://doi.org/10.1002/14651858.CD008758.pub2>
26. Nelson, M. E., Hamm, M. W., Hu, F. B., Abrams, S. A., & Griffin, T. S. (2016). Alignment of healthy dietary patterns and environmental sustainability: a systematic review. *Advances in Nutrition*, 7(6), 1005-1025. <https://doi.org/10.3945/an.116.012567>
27. See reference 24
28. Dadhich, J., Smith, J., Iellemo, A., & Suleiman, A. (2015). *Report on carbon footprints due to milk formula: a study from selected countries of Asia-Pacific region*. BPNI/IBFAN Asia. <http://dx.doi.org/10.13140/RG.2.1.3934.5049>

解決策

29. See reference 2
30. WABA. (2019). *World Breastfeeding Week 2019*. <https://worldbreastfeedingweek.org/2019/>
31. McFadden, A., Siebelt, L., Marshall, J. L., Gavine, A., Girard, L.-C., Symon, A., & MacGillivray, S. (2019). Counselling interventions to enable women to initiate and continue breastfeeding: a systematic review and meta-analysis. *International Breastfeeding Journal*, 14(1), 42. <https://doi.org/10.1186/s13006-019-0235-8>
32. McFadden, A., Gavine, A., Renfrew, M. J., Wade, A., Buchanan, P., Taylor, J. L., Veitch, E., Rennie, A. M., Crowther, S. A., Neiman, S., & MacGillivray, S. (2017). Support for healthy breastfeeding mothers with healthy term babies. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, (2). <https://doi.org/10.1002/14651858.CD001141.pub5>
33. See reference 31
34. World Health Organization. (2018). *Guideline: counselling of women to improve breastfeeding practices*. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/280133/9789241550468-eng.pdf>
35. See reference 31
36. See reference 31
37. World Health Organization & UNICEF. (2018). *Implementation guidance: protecting, promoting and supporting breastfeeding in facilities providing maternity and newborn services – the revised Baby-friendly Hospital Initiative*. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/272943/9789241513807-eng.pdf>
38. Renfrew, M. J., McCormick, F. M., Wade, A., Quinn, B., & Dowswell, T. (2012). Support for healthy breastfeeding mothers with healthy term babies. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, (5). <https://doi.org/10.1002/14651858.CD001141.pub4>
39. See reference 13
40. Ishii, K., Goto, A., Ota, M., Yasumura, S., Abe, M., Fujimori, K. & Pregnancy and Birth Survey Group of the Fukushima Health Management Survey. (2016). Factors associated with infant feeding methods after the nuclear power plant accident in Fukushima: data from the pregnancy and birth survey for the fiscal year 2011 Fukushima health management survey. *Maternal and Child Health Journal*, 20(8), 1704-1712. <https://doi.org/10.1007/s10995-016-1973-5>
41. Chagwena, D., Ncube, C., Masuka, N., Katuruza, E., Chigumira, A., & Ministry of Health and Child Care Zimbabwe. (2016, December 11-14). *Effect of El Nino induced drought on mothers' perceptions on breastfeeding in a resource-limited rural setting in Zimbabwe*. World Breastfeeding Conference 2, Johannesburg, South Africa. https://www.academia.edu/39795216/Effect_of_El_Nino_induced_drought_on_mothers_perceptions_on_breastfeeding_in_a_resource-limited_rural_setting_in_Zimbabwe-2016
42. Chagwena, D., & Madzima, R. (2014). *Sustainable Efforts to Fight Acute Malnutrition in Zimbabwe*. <https://www.results.org.uk/blog/sustainable-efforts-fight-acute-malnutrition-zimbabwe>
43. World Health Organization. (2020). *Clinical management of severe acute respiratory infection (SARI) when COVID-19 disease is suspected: interim guidance (version 1.2)*. [https://www.who.int/publications-detail/clinical-management-of-severe-acute-respiratory-infection-when-novel-coronavirus-\(ncov\)-infection-is-suspected](https://www.who.int/publications-detail/clinical-management-of-severe-acute-respiratory-infection-when-novel-coronavirus-(ncov)-infection-is-suspected)
44. See reference 21

地球と人類のための 持続可能な解決策

結論からいうと、地球が元気でいられるようにすることは私たち皆にとって喫緊の務めなのです。2015年から2030年までのSDGs、パリ協定の目標、世界保健総会で決めた2025年の母乳育児目標を達成する速度を上げるために、さらなる権利擁護運動が必要で、持続可能な生産と消費のパターンは、私たちの天然資源、私たちの環境を守り、気候変動の悪影響をやわらげます。

母乳育児はいくつかの面で地球の元気に貢献します。母乳は持続可能で、エコで、人間の健康により効果を与えます。今、地球規模で起きているシナリオは、母乳育児の割合の伸び悩み、乳業会社の急成長、現在進行形の緊急事態であり、本当に心配です。母乳育児を保護・推進・支援する運動戦略はよく知られており、実施されモニタリングされる必要があります。母乳育児カウンセリングは効果的だとわかっているの、すべての母乳で育てている家族に支援の要として届けられないといけません。

WABAの母乳で育てる母親への「温かい支援の輪」運動の中心にいるのは授乳中の母子であり、「最初の1000日間」のタイムラインに沿っています。公衆衛生の考え方をを用いて、さまざまな関係者を結び付ける方法をとります。それは、だれも取り残されないように、「切れ目のない支援」、一貫性のあるメッセージ、紹介システムをどんな場でも提供できるように調整するこ

とによって実現します。「温かい支援の輪」は、すべての女性（親）がその人に合った母乳育児ができるようエンパワーする環境を作り出します。私たちが手を取り合えば、人類と地球のどちらにも利益があるような状況を達成することができるでしょう。

母乳育児率が低いことに対して、社会全体に実行責任と説明責任があるとみなす必要がある。母乳育児率は、人類の健康と同様に地球の元気に気持ちも向けているかどうかを示す指標のひとつである。

Dr. Nigel Rollins, 2020

謝辞：WABAは以下の方々に感謝します

Contributors : Alessandro Iellamo, Alison Linnecar, Britta Boutry-Stadelmann, Dexter Chagwena, Felicity Savage, Khalid Iqbal, Mona Al-Sumaie, Penny van Esterik, Rufaro Madzima, Taru Jindal
Reviewers : Alyson McColl, Aapta Garg, Claudio Schuftan, David Clark, Elien Rouw, France Begin, Hiroko Hongo, Ilaria Lanzoni, Irma Chavarria de Maza, Juanita Jauer Steichen, Judy Canahuati, Julie Smith, Julie Ware, Kathleen Anderson, Kathy Parry,

Linh Phan Hong, Maryse Arendt, Michele Griswold, Nigel C. Rollins, Paige Hall Smith, Prashant Gangal, Rafael Pérez-Escamilla, Roger Mathisen, Rukhsana Haider, Sandy Moore-Furneaux, Taru Jindal and Zaharah Sulaiman

Editorial Team : Amal Omer-Salim, Revathi Ramachandran
Design & Layout : Nisha Kumaravel, Chuah Pei Ching
Advisor : Felicity Savage
Designer : C-Square Sdn Bhd
Printer : Jutaprint



著作権について：WABAは世界母乳育児週間のロゴとキャンペーンの教材に関して、ベルヌ条約（国際的な著作権保護に関する条約）の元によすべての法的権利と知的財産権を所有します。ロゴと教材は、内容的にも文脈においても関連付けにおいても、WABAの名譽を直接・間接的に傷つけるような方法で使うことを禁じます。商業的用途で使ったり、改変したりする場合は事前に書面での同意書が必要です。（メール：wbw@waba.org.my）ロゴと教材は、母乳代用品や関連用品、例えば哺乳瓶、人工乳首・補完食を製造、販売、流通している企業が協賛、協力、主催をしているいかなるイベントでも使うことはできません。詳しくは以下を参照ください。FAQ（よくある質問）www.worldbreastfeedingweek.org

世界母乳育児行動連盟（WABA）は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク」、世界保健機関（WHO）と国際連合児童基金（UNICEF、ユニセフ）「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づき、世界中の母乳育児の保護・推進・支援をしている個人と団体のグローバルなネットワークです。WABAはUNICEFの諮問資格を有し、国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格をもつNGOです。WABAは毎年世界母乳育児週間キャンペーンをコーディネートしています。

WABA, PO Box 1200 10850 Penang, Malaysia | Tel: 60-4-658 4816 | Fax: 60-4-657 2655 | Email: bw@waba.org.my | Web: www.worldbreastfeedingweek.org

翻訳・発行：母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan) 2020年8月

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。当ネットワークに入会希望の方はご連絡ください。

日本語訳の転載・複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 infobsn1@gmail.com https://bonyuikuji.net

〈理事名〉【●は翻訳担当】

●多田香苗（代表）、池田まこ、稲葉信子、入部博子、江田明日香、奥起久子、小野田美都江、小竹広子、●瀬尾智子、瀬川雅史、高橋有紀子、橋本紀子、田中奈美、西垣敏江、西田真奈美、●入道聡子、萩原有希子、長谷川万由美、●引地千里、福原敦子、●本郷寛子、三浦孝子、森あさよ、涌谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡邊和香、渡辺孝紀、和田友香

BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。